

八ヶ岳  
縄文

JOMON

ライフフェスティバル

～「生きる」はもっと素直でいい～

八ヶ岳JOMONライフフェスティバル実行委員会

## タイトル / テーマ

# 八ヶ岳JOMONライフフェスティバル

～「生きる」はもっと素直でいい～

茅野市では、2017年9月9日(土)から10月22日(日)に、これまで行われてきた縄文に関する様々なイベントをぎゅっとまとめながら、更に新たな取組をくわえ、これまでよりさらに多面的に縄文をみつめる八ヶ岳JOMONライフフェスティバルを開催します。

### 縄文とJOMON “トリエンナーレ”とは？

八ヶ岳の裾野に今も息づく縄文の精神を伝えたい…  
茅野の「縄文」を  
世界の「JOMON」へ、また、アートなど多分野へ…  
そんな思いを込めて、タイトルは  
「八ヶ岳JOMONライフフェスティバル」としました。  
「八ヶ岳JOMONライフフェスティバル」は  
“トリエンナーレ”として計画しています。  
トリエンナーレとは3年に1度のイベントのこと。  
毎年行われるイベントを3年に一度にぎやかに…  
そして毎年のイベントも次のフェスティバルを目標に  
しながら、育み、深め、発展させるサイクルを  
創っていきたい…  
トリエンナーレにはそんな意気込みが隠されています。

### テーマに込めた願い

たとえば…  
縄文土器の素朴で大胆なデザインは  
どこから生まれたのでしょうか？  
ただの“うつわ”は単に機能を満たすだけのものではなく、  
見て、使って、飾って、3倍たのしむというアイデアは  
どこから生まれたのでしょうか？  
きっと誰かが、日々の暮らしのなかに、  
喜びや楽しみを見出そうとしたからではないでしょうか？  
“「生きる」はもっと素直でいい”というテーマには、  
現代を生きる私たちも、自分が感じる喜びに  
もっと素直でありたいという願いが込められています。

# 位置づけ・コンセプトの整理

## 縄文プロジェクト

縄文を識る

縄文を広める

縄文から産み出す

縄文を楽しむ

縄文を守る

## 八ヶ岳JOMONライフフェスティバル

縄文のむかしから、多くの人が暮らし、集った、その精神が今なお息づくこの地で、縄文を更に知り、その精神をさぐりながら、「衣」「食」「住」「遊」という、私たちの暮らし=ライフの原点を見つめなおすフェスティバルです。  
今、そして未来につながる、縄文のスピリットをみんなで再発見しましょう！

### 八ヶ岳JOMONライフフェスティバルにおける取り組み

既存の縄文関連の取り組みの  
深化とステップアップ

アートやその他の取り組みへの  
昇華

ライフスタイルの  
提案

## 茅野市から発信する縄文文化

### ■ 茅野市で行うことの意義

縄文文化は、縄文時代中期に最も大きく花開き、多くの人たちがここ八ヶ岳山麓で生活していました。茅野市は歴史的にみても貴重な縄文遺産のある地域で、その中心であったと考えられています。縄文プロジェクトは、その縄文文化を築いた人たちの心を、「縄文を識る」、「縄文を広める」、「縄文を楽しむ」、「縄文から産み出す」、「縄文を守る」の5つの視点から生活全般に関わる様々な取組へと繋げるプロジェクトです。現代を生きる人たちへ縄文文化を築いた人たちの心を伝え、そこから生まれる、時代を超えてなお価値のある生き方を考えることは、茅野市だからこそできることです。

### ■ 成長・発展するフェスティバル

八ヶ岳JOMONライフフェスティバルは、その縄文プロジェクトの活動の象徴的ともいえる取組です。また、1回限りで終わるものではなく、回を重ねるたびに成長し、現代に求められるライフスタイルを考えて続けていきます。その都度、時代のニーズに合わせて変化し、内容を深めながら、さらに発信力を高めていくことを目指します。縄文文化を築いた人たちの心を八ヶ岳JOMONライフフェスティバルを通じて日本中に、さらには世界へ届けます。

## ステップアップの将来計画

### ■ プロローグとしての「第0回」

今回の八ヶ岳JOMONライフフェスティバルは、記念すべき「第0回」と位置付けてスタートします。これはいわば、第1回目に向けたプロローグです。

今まで行われてきた様々な縄文に関するイベントをフェスティバルの枠組みの中で再構成しながら取り組むことで、茅野が発信する縄文のメッセージを届け、各イベントの実施主体同士のコミュニケーションを活発にし、信頼関係を築きます。

### ■ 第1回目へ… そして未来へ

3年後の第1回は東京オリンピックが行われる2020年。日本に世界の注目が集まるまさにその年。それまでに私たちは、様々な形でより国際的な視点で発想することが求められるようになります。そういった経験を踏まえて迎える第1回目は、更にグローバルにローカルな魅力を発信する企画に取り組むこととなります。

第0回目では、第1回目以降にどのように世界に向けて発信するか、また、縄文文化に興味を持つ日本語圏以外の人びととつながりを持っていくかを視野に入れながら試行していきます。

第1回目までの2年間、毎年イベントの中でそれらの要素を試していきます。

そして、2回目、3回目と回を重ねながら、毎回の取り組みをふりかえり、企画に反映させていきます。